

交通安全は

年末・年始の交通事故防止

「ゆとり」と思いやりの心」から

十月末日現在、山梨県はとうとう、人口当りの交通事故による死者数が、全国でワースト2を記録するという非常事態に立ち至りました。

都留警察署管内でも昨年の同期に比べ、事故発生件数で二〇%の増加、そして死者の数においてはなんと、二六〇%の増加となっています。

県内には十五の警察署がありますが、死者の数では都留警察署管内がワースト3という、恥すべき順位です。

県警本部では十一月二日、緊急対策を発動し、交通事故防止のため総力をあげて取り組んでいます。

ドライバーのみなさん、歩行者のみなさん、年末から年始にかけての交通事故を防止するためにも「ゆとり」と思いやりの心」をもって安全運転・安全歩行に努めましょう。



無謀運転の結末

スピードの出し過ぎは

「自殺行為」

最近の交通事故死亡原因のなかで目立つのは、制限速度を超えたスピードの出し過ぎによる事故が大幅に増えていることです。

そもそも、自動車の制限速度というのは、自動車の種類や道路の状況などを考え、危険を未然に防止し、交通の安全が保てる速度ということで指定されているのです。ですから、スピードの出し過ぎは自ら危険を冒し、死への道を進んでいるのと同じことです。

ドライバーの皆さんは「スピードの出し過ぎは事故につながる」

ということを心に銘記し、制限速度内で走ることを心掛けましょう。



飲酒運転防止は

「三三三」の実践から

年末から年始にかけては「忘年会」や「新年会」などがあり、何かとお酒を飲む機会も多くあります。

この時期、ドライバーの方に特に注意してもらいたいのが、飲酒運転による事故です。

お酒を飲むと、自分では酔っていないと思っても、感覚は麻痺し、素早い判断や行動ができなくなります。

具体的には、前方の人や車の確認が遅れたり、見落したりするほか、気が大きくなり危険を危険とも思わなくなってしまうなど、非常に不安定な心理状態になります。つまり飲酒運転は、交通事故と背中合せになっているのです。

飲酒運転の防止には、ドライバー自身が気をつけるだけでなく、

家族、地域、職場ぐるみの注意も必要です。そこで、ぜひ次の「三三三運動」を実践してください。

- ▽飲んだら乗らない
- ▽乗るなら飲まない
- ▽乗るなら飲ませない

安全運転の励行は

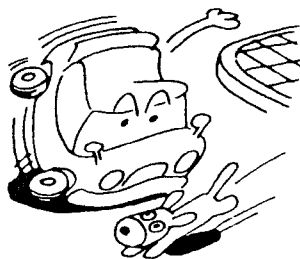
「ゆとり」から

ベスト・ドライバーの条件とは走行中、特に先を急いでいるようなときでも、はやる気持を抑えて運転できることだと言われています。

年末のあわただしさのなかで、時間に追われての運転中、ついほかのことを考えたり、わき見運転するのは大変危険です。

ちよとした心のスキが重大事故を招きます。

安全なスピードで十分な車間距離を保ち、前方の安全を確認し、



どんな事態にも対応できるよう、常に「ゆとり」をもって運転しましょう。

歩行者の安全な横断は

自らの手で

歩行者も、年末になると気分的にあわただしくなり、つい先を急ぐ気持から、いきなり道路に飛び出したり、無理な横断をしたりする光景が目につきます。

しかし、車は急に止まれません。急ブレーキを踏んでから車が止まるまでの距離はというと、時速六十キロで約六十メートル必要です。

また、時速六十キロでの走行距離は一秒間で約二十メートル。

まだ遠くに車がいると思っても、アツという間に近づいてきます。はやる気持、あせる気持ちは歩行者にも禁物です。

「自らの安全は、自らの手」を合言葉に、交通事故に遭わないよう気をつけましょう。

